

# いっしょにやる、ということ

～ 今、なぜ「対話」を活かした市民参画が求められているのか ～

国立大学法人九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 理事・運営委員

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 フェロー 加留部 貴行

## 1. 「対話」とは

- ・誰も「正解が分からない時代」を生きている

・「対話」 =  ×

## 2. 時代の変化の中で「限界集落」化しつつあるコミュニティ

- ・「孤軍奮闘・孤立無援」だらけの現場 ～「限界集落」の本当の意味
- ・「少子高齢化」は地域だけの問題ではない ～10年後に何が起こりそうか
- ・「社会関係資本(ソーシャルキャピタル)」を取り戻す  
⇒ 3つの要素…「信頼」、「互酬性の規範」、「ネットワーク」

## 3. 各地で広がる多様な共働を進めるための「対話の場づくり」

- ・話をしていそうで、話をしていない人同士で、話をする
- ・『人「交」密度』(人の交わりの密度)を増やす ～多様な世代が関わる機会を創る
- ・中高生に潜む力から学ぶべきは大人たち ～大人は何をすべきかを考える

【ご参考】共働へのストーリーとワークショップ (加留部作成)

